

あなたは卒業していますか

一年国語が『少年の日の思い出』に入りました。授業を担当しているS教諭は、毎日提出されたノートを点検したり、授業のやり方を工夫したりして頑張っています。この作品は、気が滅入るような暗い話に思えますね。しかし、とても大切な意味をもっている作品です。それが、この作品の教科書に載り続けている理由です。

主人公の少年と、隣に住むエーミールという少年が出てきますね。あなたは、どちらが「ガキ」だと思いますか。(ごめんなさい。「子どもっぽい」「幼稚」という言葉をあえて使わず表現しました。その方が私の言いたいことが伝わるからです。)

読み始めたころは、エーミールが「ガキ」に思えませんでしたか。過ちを犯した主人公を、冷ややかな態度であしらっているところなどは、優しい皆さんが読むと違和感を抱くでしょうね。「なんて冷たい子だ。許してあげればいいのに」と思ったのではないでしょうか。これは作品の中の出来事を、自分たちの生活とだぶらせて考えるからです。エーミールの言動は至って正常です。大人の言動です。丁寧に読んでいくと、それがわかります。

「ガキ」なのは、主人公のほうです。ちように心を奪われ、正常な判断ができなくなっています。周りに迷惑をかけてもお構いなしです。取り返しのつかないことをやってしまってもどう対処してよいかわかっていません。拳句の果てに、思い通りにならないと、暴力に訴えようとしています。

先日、一年A組の授業にお邪魔しました。主人公の少年がちように集めに心を奪われている場面の学習でした。私の滞在していた短い時間内に、すばらしい意見が出ました。私はその意見に大きな関心を寄せました。

その意見を出したのはM・H君でした。彼はこう語りました。

「この(主人公の)少年は『中毒』にかかっているみたいで……。」
まさしくその通りです。「ちようを集めが好き」のレベルではないことを、彼は「中毒」という言葉で見事に表現しました。的を得た実に見事な意見だと私は感動しました。そうです!この場面は、ちよう集めに「中毒症状」を起こしている主人公が描写されている場面なのです。

ここで、自分をあてはめてください。ゲーム、SNS、アニメ……皆さんにも夢中になりそうなものがありますよね。主人公のように「中毒」になっていませんか。常識と節度ある楽しみ方ができていますか。主人公の少年は、話の最後で自分の「中毒症状」に気付きました。そして、荒い方法で、それを自分で断ち切りました。「ガキ」を卒業し、大人への道を歩き始めた瞬間です。

中二でも中三でもなく、中一の教科書に載り続けている理由はこれなのです。大人に近づくということは、幼さを卒業するということです。あなたは卒業していますか。

(一月二十六日記)